A photograph of various laboratory glassware including a round-bottom flask, two Erlenmeyer flasks, a beaker, a graduated cylinder, and a test tube, all containing a blue liquid. The background is a blurred laboratory setting.

経堂地区における 地区防災力の検討

東京農業大学
防災班

テーマ設定理由、動機

「経堂地区における地区防災力の検討」

- 経堂地区は武蔵野台地上に位置
地震災害、洪水、液状化等の心配がない地理特性
- ハード面課題：街路の狭さと火災（耐火工事も進む）
- 都市域では地区防災力、地域連携によるレジリエンス
の向上が鍵

→ソフト対策として個人の避難行動及び地域連携に必要な施策について検討すべき

活動実績

- 6/24 車座集会（上町地区）
- 7/22 ごみ減量リサイクル推進キャンペーン（経堂地区）
- 7/25 経堂地区町会長会議
- 8/20 車座集会（経堂地区）
- 9/4 宮坂1・2丁目町会長ヒアリング
- 9/13 経堂地区町会長会議
- 9/24 経堂北町会防災訓練
- 10/14 防災アンケート実施
- 10/22 桜丘1丁目町会防災訓練、経堂南町会防災訓練
- 11/12 桜丘中学校避難所運営訓練
- 11/18 世田谷小学校避難所運営訓練
- 11/19 経堂小学校避難所運営訓練



学生が防災訓練に参加して感じたこと

- 高齢者の参加率が高い反面、若者は少ない傾向
- 子どもがいるご家庭の参加率が高い
→ 世代間交流の場
- 消火器やスタンプポンプの使い方等
火災の初動期対応（初期消火）がほとんど
- 避難経路の確認や無線機の使い方等
災害×情報の訓練が少ない。



地域の方々からの意見

- 地域内に存在する20～50代のサイレントマジョリティーの町会参加を促すためにはどのような手法を取るべきか
- 上記もさることながら、地域行事参加率の向上に向けて町会はどの情報媒体で、どのように広告する事が効果的か
- 防災訓練自体の効果を向上させるためにも、地域による包括的な防災力を得るためにも多様な年代層の、多様な業種の人々が地域コミュニティ醸成という副次的目的で利用してもらいたい
- 在宅避難という言葉や世田谷区が推奨していることのみが一人走りして、避難時に重要な実際の避難行動指針や安全基準を示すことが必要。中身が伝わっていない。一時集合所や在宅避難の考えには賛成。後は実際住民が避難する際の「不安要素」を取り除いて行動を促す事が必要

アンケートの集計方法

- ①各町会の防災訓練に参加し、参加者からアンケートを取る。
- ②町会の回覧板に、アンケートのQRコードを入れ回答していただく。

集計期間は2023年9月下旬から11月

集まった回答は202件

アンケート項目

- ①災害が発生した時、どのように情報を集めますか。
- ②「エフエム世田谷」は地域に密着した情報を24時間365日体制で発信し、世田谷区の「地域防災力の強化」と「コミュニティの醸成」に貢献することを目的としていますが、ご存知ですか。
- ③災害が発生したら最初に避難する場所はどこかご存知ですか。
- ④在宅避難という言葉をご存知ですか。また、世田谷区が推奨しているをご存知ですか。
- ⑤もし、地震が起きて自宅が無事だったら、在宅避難をされますか。
- ⑥5で回答した理由を教えてください。
- ⑦防災備品の準備をされていますか。
- ⑧避難するにあたって不安に思っていることがあればお書きください。
- ⑨ご年齢 ⑩町会名

アンケートから得た意見

在宅避難する理由

- ・必要なものが揃っているから
- ・住み慣れた自宅にいたい
- ・ストレスが軽減される
- ・避難所は人多そう

在宅避難する可能性が低い理由

- ・自宅が古く倒壊の危険がある
- ・在宅避難の意味がよく分からない

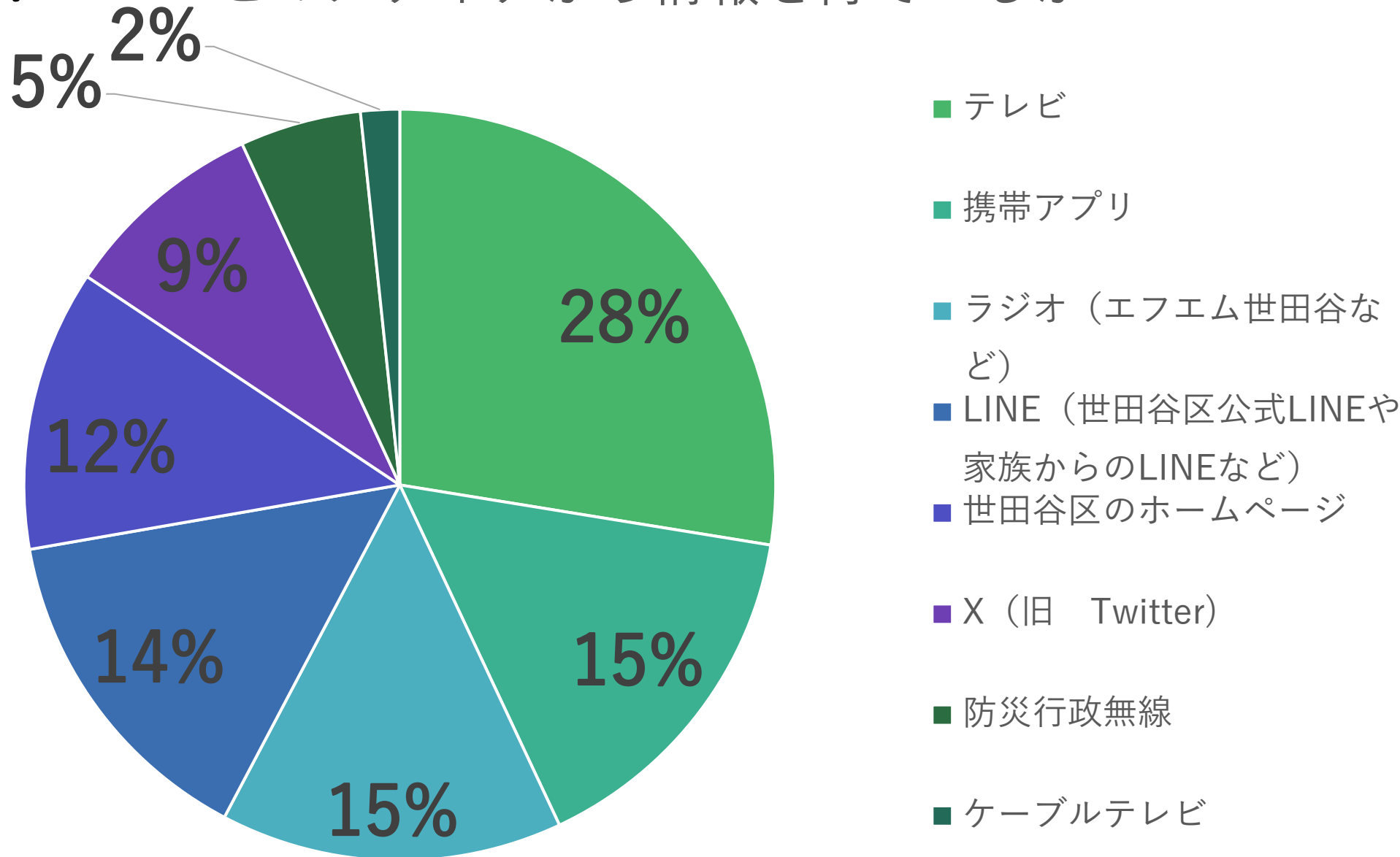
避難するにあたって不安に思っていること

- ・火災が起きた時どこに行けば良いかわからない
- ・安否確認できるか
- ・在宅避難の際に物資は足りるのか、足りなかったら支援へのアクセスはあるのか
- ・ペットと避難できるか

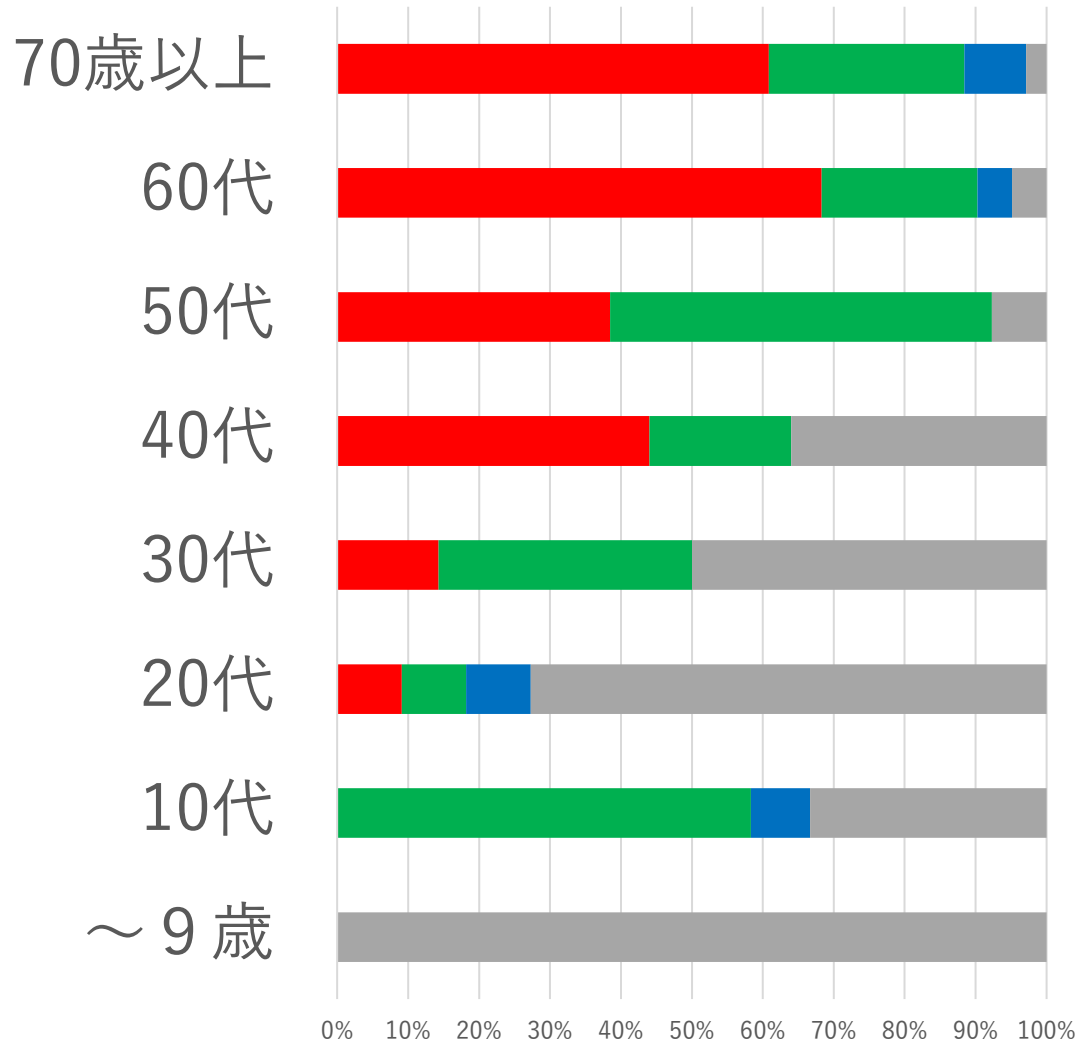
詳しいアンケート結果はデータ資料をご覧ください

アンケート結果

どのメディアから情報を得ているか



年齢 × 在宅避難の認識



■ どちらも知っている

■ 「在宅避難」の意味は知っている

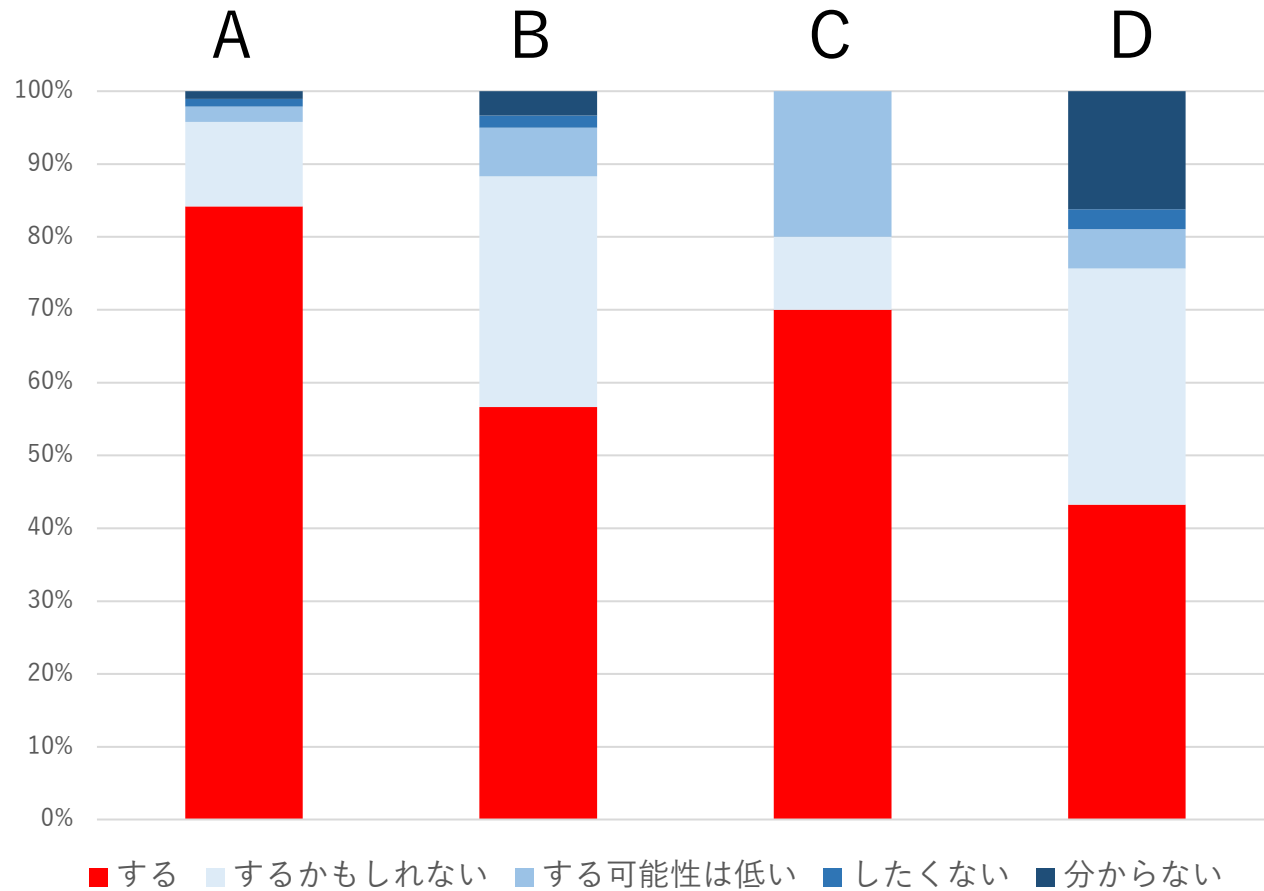
■ 区が推奨していることは知っているが意味がよく分からない

■ どちらも知らない

「年齢」と「在宅避難の認識」の間には弱い相関関係がある

20~40代での認知度が低いことがわかる

在宅避難の認識 × 実際に在宅避難をするか



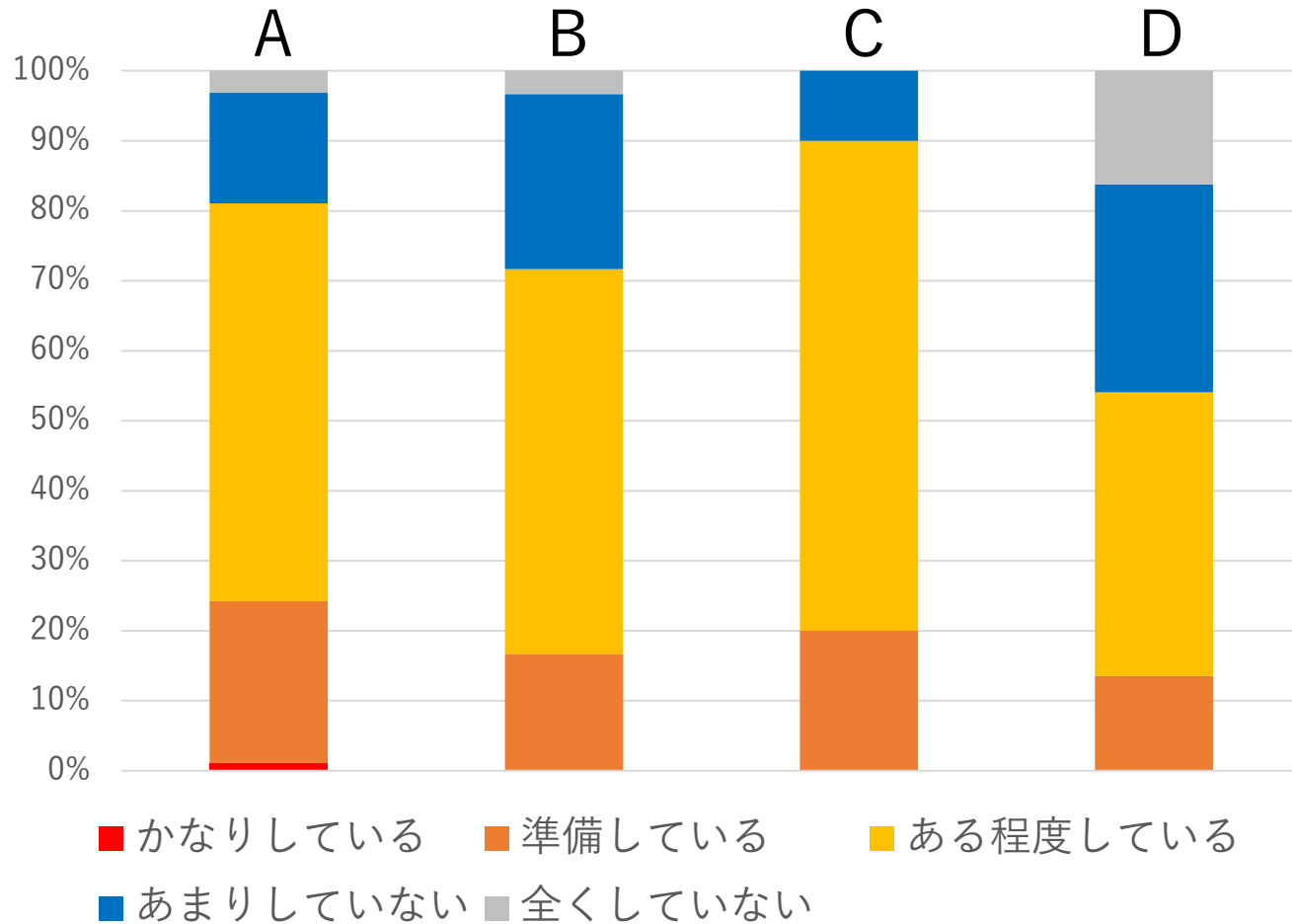
実際に在宅避難をするか の回答

- A. どちらも知っている
- B. 在宅避難の意味は知っている
- C. 在宅避難を区が推奨している事を知っている
- D. どちらも知らない

「在宅避難を区が推奨していることを知っている」集団（C）は、「意味は知っている」集団（B）より、在宅避難を「する」と答えた割合が**高い**

「したくない」回答がCには**ない**

在宅避難の認識 × 自宅の災害用備蓄



- A. どちらも知っている
- B. 在宅避難の意味は知っている
- C. 在宅避難を区が推奨している事を知っている
- D. どちらも知らない

「在宅避難の認識」と
「自宅の備品」の間には
相関関係が見られなかった

(「実際に在宅避難をするか」と「自宅の災害用備品」も同様)

災害用備品の準備はあるか の回答

アンケート分析

- 在宅避難について
 - 在宅避難を実際の避難行動と結び付ける要因は、意味や普及率ではなく
「区が推奨している」事実であると言える
- 在宅避難に必要な物として、世田谷区は「一人最低3日以上」の備蓄を推奨している。
- 備蓄に相関がない→平時の行動との結び付きが薄い



私たちの提案

- ・ 在宅避難は今後20～40代をターゲットに向けて発信
- ・ 既に認知度が高い50～70代以上について今後は「住まいの点検」や「3日以上のお蓄」(中身)について発信
= 世代に応じた広告の工夫を
- ・ 非常時の在宅避難に向けて平時からの行動に結び付ける
= 区が推奨している事実と点検やお蓄の実施をセットで伝える
- ・ 今年度で得た情報を基に来年度ではより具体的な施策案へと発展させる

謝辞

本研究にあたり、多くの方々にご協力頂きました。

ヒアリング及びアンケート調査にご協力頂いた経堂地区町会員のみなさま
防災訓練でアンケート調査にご協力頂いた参加者のみなさま
私たちの活動にてご支援を頂いた経堂まちづくりセンター、
NPO法人まちこらぼのみなさま
感謝申し上げます。

ありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました

